警戒レベルと住民がとるべき行動

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険　直ちに安全確保！	緊急安全確保
＜警戒レベル４までに必ず避難！＞			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報（気象庁）

◎「警戒レベル」とは

災害発生のおそれの高まりに応じて５段階に分類した「住民がとるべき行動」と、その「行動を促す情報」とを関連付けるもので、「白／黄／赤／紫／黒」の５色で色分けされます。

警戒レベル１・２

警戒レベル１・２では、気象庁が「行動を促す情報」を発表します。

警戒レベル１では、「早期注意情報」を発表します。皆さんは、最新の気象情報などに注意して、災害への心構えを高めましょう。

警戒レベル２では、「大雨注意報」「洪水注意報」などを発表します。皆さんは、ハザードマップ等により避難先や避難経路を確認しましょう。また、災害情報の収集手段（テレビ・ラジオ・スマートフォン・アプリなど）、家族との連絡手段も再確認しておきましょう。

警戒レベル３～５

警戒レベル３～５は、香美市から「行動を促す情報」として、「避難情報」を発令します。

「避難情報」は、洪水災害や土砂災害発生の高まりに応じて、「高齢者等避難／避難指示／緊急安全確保」の３種類があります。

「警戒レベル３高齢者等避難」が発令されたときは、高齢者・身体の不自由な方・子どもづれの方・危険だと感じる方などは、危険な場所から避難するよう「避難行動」をとりましょう。

「警戒レベル４避難指示」が発令されたときは、危険な場所から全員避難するように「避難行動」をとりましょう。

「警戒レベル５緊急安全確保」が発令されたときは、「立退き避難」することがかえって危険である場合、「緊急安全確保」の「避難行動」をとることになりますが、この行動は、身の安全を確保できるとは限りません。なお、この「避難情報」は、災害が発生したり、切迫した状況で発令するものですので、市がその状況を把握できていない段階では発令することができないおそれもあります。

このようなことから、皆さんは、早い段階から命を守る行動をとるように心がけましょう。

台風への備え

台風は、年間２５個程度、７月から１０月にかけて最も多く発生しています。そのうち、１２個程度が日本に接近し、３個程度が日本に上陸しています。

◎ 昨年の「台風第１４号」の大きさや強さを振り返ってみましょう

令和４年９月に発生した大型の台風第１４号は、“過去に経験のないような危険な台風”とされました。その勢力は、災害対策基本法制定の契機となった伊勢湾台風を上回るおそれがあるともいわれ、九州に甚大な被害をもたらし、強い勢力を保ったまま本県に接近しました。

台風の大きさ	強風域の半径
超大型（非常に大きい）	800km以上
大型（大きい）	500km以上～800km未満
（表現しない）	500km未満

半数以上の台風が、「強い」以上の階級まで発達しています。

9%　23%　47%　22%

■台風　■強い台風　■非常に強い台風　■猛烈な台風

強さ別の台風の発生割合（1991年～2020年）

台風の強さ	最大風速
猛烈な	54m/s以上
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
強い	33m/s以上～44m/s未満
（表現しない）	33m/s未満

◎ 備えは雨や風が強くなる前に

台風のときは、風が強くなる前に避難行動をとりましょう。平均風速１５～２０m/sの風では、歩行者が転倒したり、車の運転に支障が出始めます。さらに強くなると、建物の損壊、農作物の被害、走行中のトラックが横転するなど甚大な被害をもたらします。最大風速が４０m/sを超えると電柱が倒れたりすることがあり、停電にも注意が必要です。

窓・雨戸の戸締り・補強、飛散しそうな物の固定や片づけなどは、雨や風が強くなる前に済ませ、また、窓ガラスが飛散しないよう、テープを貼ったり、カーテンを閉めるなどの対策もしておきましょう。

台風の接近中は、不要な外出は控えましょう。大雨で増水した小川や側溝は、転落事故などのおそれがあり、大雨で山崩れ・がけ崩れなども起こりやすくなります。

気象庁が発表する台風情報

https://www.jma.go.jp/jp/typh/

台風の発生から上陸まで

気象庁は台風発生の１日前から台風情報を発表します。

▼ 日本に接近・上陸する台風の衛星画像の例

「熱帯低気圧」が発達して、低気圧域内の最大風速がおよそ17m/s以上になったものを「台風」と呼びます。

台風が日本に接近するまでに、早めに備えをしておくことが重要。

台風経路図、全般台風情報

台風・熱帯低気圧の位置や強さなどを予報し、防災上の注意を呼びかけます。

台風経路図

全般台風情報

▼ 令和元年東日本台風の例（台風第１９号）

令和元年　台風第１９号に関する情報　第３２号
令和元年１０月１０日１７時２５分　気象庁予報部発表

（見出し）
大型で猛烈な台風第１９号の影響により、１１日までには、東日本太平洋側から南西諸島にかけての広い範囲で猛烈なしけや大しけとなる見込みです。台風はその後、非常に強い勢力を保ったまま、１２日午後から１３日にかけて、紀伊半島から東日本にかなり接近または上陸し、東日本を中心とした広い範囲で

台風の今後の見通しや防災にかかわる情報、台風の発生や上陸などの情報について発表します。なお、熱帯低気圧の場合は標題が「発達する熱帯低気圧に関する情報」となります。

暴風域に入る確率

25m/s以上の暴風域に入る確率を**分布図**と**時系列グラフ**で発表します。

25m/s（90km/h）は
高速道路の自動車並みのスピード！
立っていられないくらいの風なので大変危険です。

時系列グラフでは、地域ごとの暴風域に入る時間帯を知ることができます。

▲ 東京都（23区東部）での表示例（令和元年10月9日15時）